

テーマ展

令和7年 8.2[土]—9.28[日]

開館時間 午前9時から午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日 (8月11日、9月15日は開館)
8月12日(火)、9月16日(火)は休館

観覧料 一般310円 (240円)
小・中学生150円 (120円)

※()内は20人以上の団体料金
東三河の小中学生は「ほの国こどもパスポート」
の提示により無料
障害者手帳(ミライロID可)をお持ちの方と
付き添いの方1名は観覧無料

戦争が終わって80年、 昭和が始まって100年、 戦争が終わって80年展

昭和の渥美半島を
のぞいてみませんか？



二号磁石式電話機
1896(明治29)年～
昭和30年代半ばごろまで使用

石膏製兵士像
(地元出身の戦死者がモデル)
1938(昭和13)年ごろ

地元商店のうちわ

田原市博物館

昭和が始まって100年、戦争が終わって80年展



真空管式ラジオ
昭和30年代に使用
早川電機工業(現シャープ)製

昭和の渥美半島をのぞいてみませんか？

今からおよそ100年前となる1926年12月25日、大正天皇の崩御によって昭和時代が始まりました。

昭和の64年間は、長い日本の歴史の中でも特に激しい時代の変化を伴うものでした。昭和初期の不況や恐慌、戦後の混乱と復興、さらに高度成長に伴う人々の仕事や生活様式の変容は、他の時代には類をみないほどでした。そして、満洲事変から太平洋戦争の敗北まで、15年にも及んだ戦争は、生死も含めて人々の運命を特に大きく揺さぶるものでした。もちろん、それは日本の一地方である渥美半島にも大きな影響を及ぼしました。この展覧会では、主に当館に残されたありし日の昭和のモノを展示しつつ、当時の姿を探ってみたいと思います。



チャイナーマホービン
昭和時代中期



満洲国三江省(現在の中国黒竜江省)で警備に当たる歩兵第十八連隊の兵士(現田原市内出身者も含まれる)
1934(昭和9)年～1936年



「カレーモナーカ」外箱
昭和時代初期



田原祭りで田原街道を曳き回される三町の屋山車
1988(昭和63)年ごろ 鈴木政一氏撮影、元写真は個人蔵



紀元2600年を記念して田原のまちなかで行われたお祭りの様子 1940(昭和15)年
鈴木政一氏撮影、元写真は個人蔵

関連イベント

紙芝居『前日物語』上演(要観覧料、申込不要)

1945(昭和20)年に田原市豊島町であった渥美線電車機銃掃射の調査を続けてきた「前日の会」による紙芝居を上演します。

日時 8月10日(日)11:00～、14:00～
会場 田原市博物館 ロビー

ギャラリートーク(要観覧料、申込不要)

当館学芸員による展示解説

日時 8月16日(土)、9月7日(日)13:30～



- JR・名鉄「豊橋」駅から豊橋鉄道渥美線乗車「三河田原」駅下車、徒歩15分(田原城跡内)
- 豊鉄バス伊良湖本線・支線「田原萱町」下車、徒歩10分
- 田原市ぐるりんバス「博物館入口」下車、徒歩3分



ホームページ



インスタグラム

田原市博物館

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江11-1
TEL 0531-22-1720
https://www.taharamuseum.gr.jp